

1 基本理念及び柱の指標と目標値

	指標	第8期策定時(R2)	第9期策定時(R5)	現状値(R7)	目標値
基本理念	「総合的に暮らしやすい」と感じる60歳以上の割合		54.1%	R8調査実施後に集計	割合の上昇 (全世代平均以上の伸び)
柱	65歳以上(在宅要介護者)の主観的幸福感		40.8%	38.6%	割合の上昇
	65歳以上(要介護の方を除く)の主観的幸福感	46.2% (R2健康とくらしの調査より)	48.7%	51.5%	割合の上昇
	65歳健康寿命	男性:81.55歳 女性:82.46歳 (平成30年)	男性:81.76歳 女性:82.76歳 (令和3年)	男性:81.67歳 女性:82.88歳 (令和5年) ※都平均 男:81.25歳 女: 83.0歳	都平均以上の伸び
	介護保険制度への信頼度		25.8%	31.1% (65歳以上の回答を含めた場合:43.8%)	割合の上昇と 世代間の差の縮小

2 施策目標の指標と目標値

柱	施策目標	アウトカム・事業	指標	現状値(策定時)	現状値(R7)	目標値	個別事業R6評価					
							◎	○	△	×	-	
1. 安心「出逢い、つながり、支えあう地域づくり」	1	住み慣れた地域で、状態に応じた必要な介護サービス等が提供されている	介護保険サービスの満足度	95%	91.5% ↓	割合の上昇	2	3	0	0	4	
	2	医療と介護が一体的に提供され、在宅での生活が継続できている	在宅死亡率	19.7% (令和4年)	19.3% ↓	24%	4	1	0	0	6	
	3	高齢者が安心して暮らすことのできる住まいと住環境が整っている	今後の住まいについて不安を感じていない高齢者の割合	29%	56.7% ↑	31%	5	3	1	0	2	
	4	高齢者の権利利益が擁護されている	虐待や財産の詐取などから高齢者が守られていると感じるケアマネジャーの割合	【9期中に調査】	調査実施後に集計	-	-	1	7	1	0	6
	5	認知症への理解と備えが広がり、認知症の人と共に尊厳と希望をもって暮らしている	認知症になっても地域で幸せに暮らせると思う市民の割合	11%	7.5% (65歳以上の回答を含めた場合:12.7%) ↓	18%	4	7	2	0	0	
	6	家族の負担が軽減されている	在宅介護に対して不安を感じていない介護者の割合	12%	14.2% ↑	割合の上昇	6	4	1	0	4	
	7	多様な職種や機関が連携して個人や地域の課題を解決している	「(仮称)地域包括ケアアクションプラン」の策定	-	策定に向け検討中	-	令和6年度中	4	3	3	0	2
	8	高齢者や介護者の様々な困りごとが、身近な場所で安心して相談されている	何かあったときに、家族・知人・友人以外で相談できる人がいる高齢者の割合	60%	56.2% ↓	63%	1	3	2	0	3	
	9	高齢者の多様なニーズに対応する支援や見守りが、多様な主体から提供されている	保険外サービス、ボランティアを利用している在宅要介護・要支援者の割合	27%	40.3%(※1) ↑	30%	6	3	5	0	3	
2. 希望「やりたいこと、なりたい自分をあきらめない環境づくり」	10	それぞれのライフスタイルに合わせて社会参加を行っている	各種社会参加の頻度を合わせて週1回以上になる高齢者の割合	54%	51.8% ↓	58%	2	4	3	0	3	
	11	住民が介護予防に資する活動に取り組み、要支援・要介護状態になりにくくなっている	ニーズ調査のフレイル率	24%	16.7% ↑	20%	1	11	2	0	1	
	12	望む暮らしの再獲得(リエイブルメント)が可能になっている	要支援から要介護認定に変化した人の割合	19%	19.3%(※2) →	割合の低下	6	4	1	0	2	
	13	サービスが効果的に提供され、利用者の状態改善や重度化防止につながっている	短期的な平均要介護度の変化(軽度【要介護1・2】)	45%	61.76% (都平均:63.1%) ↑	変化率の改善 (都平均以上の改善率)	2	2	0	0	4	
3. 未来「世代を超えて信頼できる制度づくり」	14	自立に向けて、必要なサービスを提供するために適切な認定が行われている	調整済み軽度認定率	15%	14.9% ↑	都平均±標準偏差以下	0	4	2	0	1	
	15	介護人材が十分に確保され、やりがいを感じながら、無理なく、効率的に働いている	介護人材の不足を感じている事業所の割合	62%	調査実施後に集計	割合の低下	4	6	2	0	4	
	16	高齢者福祉や介護保険事業について、EBPMの考え方と手法が定着している	5-3で棚卸した事業全体のインプットに対するアウトカムの比率	事業の棚卸し後設定	第10期策定及びロジックモデルの再整理の中で設定	-	事業の棚卸し後設定	0	1	6	0	2

※1 R7調査では訪問理美容や緊急通報システム等の介護保険外サービスを選択肢に追加して調査を実施

※2 要支援1→2に変化した人を含む